

上尾市立大石小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

- 考える子
- 思いやりのある子
- がんばる子

学校課題研究主題

「わかった、できたを実感し、自信を育てる算数科の授業づくり」
 -個別最適な学びと協働的な学びの実現を通して-

学力・学習状況調査の結果

R6 全国学力・学習状況調査	R6 埼玉県学力・学習状況調査	R5 上尾市立小・中学校学力調査
<ul style="list-style-type: none"> ・国語の平均正答率は、全国を5.3ポイント上回った。 ・「書くこと」の正答率は全国平均よりも6ポイント高く、漢字は、10.4ポイント高い。「人物像を具体的に想像すること」にやや課題がある。 ・算数は、全国を4.6ポイント上回った。 ・どの区分も正答率が国県平均よりも高かった。「道のりと時間と速さの関係」を言葉や数を用いて記述することには課題がある。 ・評価の観点、問題形式全てで、国の平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルの平均は、5・6年生ともに国語算数ともに1段階上昇し、県を上回っている。 ・学習方略と非認知能力については、全て県平均より高いレベルである。 ・国語では、読むことについては正答率が高く、言葉の特徴や使い方については低い傾向が見られた。 ・算数では、学年によって課題がまちまちではあるが、変化と関係については正答率が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年が全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。特に5年生に日頃の指導の成果が表れている。 ・全教科が全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。特に国語に日頃の指導の成果が表れている。 ・経年比較（同一集団）で見ると、算数の学力にあまり伸びが見られないため、児童が数学的な見方・考え方を働かせる授業を展開すると共に、児童一人ひとりに応じた学習活動を設定し、「わかった」「できた」を実感することができるようにしていく。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ①漢字や計算などの各教科における基礎的な知識。 ②既習の知識をもとにして、問題を解く技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ③自分の考えについて、理由を言葉や数を用いて記述する力。 ④資料等を用いて、自分の考えが伝わるように発表・表現する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤自己効力感（自分への自信、自己肯定感）。 ⑥児童が自ら進んで学習に取り組んでいく素地。

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を明確にして授業を行う。 ・児童一人ひとりに応じた学習活動を設定し、「わかった」「できた」を実感させる。（個別最適な学び） ・既習内容、新しく学ぶことを明確にして、児童に興味をもたせた授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の見方・考え方を働かせる授業を展開する。 ・学習形態を工夫し、児童同士で協働しながら学習に取り組めるようにする。（協働的な学び） ・発問を工夫して授業を展開することで、自分の意見の根拠を明確にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が互いに認め合える環境をつくり、主体的に自分の意見を伝えられるようにする。 ・学習を振り返り、以降の学習に結び付けることで力を高め、伸ばすことができるようにする。

本校の特色ある取組

- 数学的な見方・考え方を働かせる授業を展開
- 児童が計画・運営する活動「集会活動」
- 児童相互の交流を深め、豊かな心を育む活動「たてわり班活動」
- 多様な集団活動を通して、支え合い、高め合う「児童会・クラブ活動」

家庭教育との連携

- 主体的な家庭学習「チャレンジ学習」と「デジタルドリル」の活用
- 家庭や地域への情報発信
- 学校応援団の充実した活用
- 近隣の幼稚園、保育園、小中学校との連携